

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経営戦略研究科後期課程
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本研究科学生用の共用研究室を整備する	→2010年3月までに設置	D	C			
2. 本研究科学生のための研究支援、海外調査支援、研究成果公表支援の妥当性について、定期的に見直しを行う	→見直しのための教授会を1年に1回開催する	C	B			
3. 本研究科教員・学生の研究倫理のコンプライアンスについて、定期的に見直しを行う	→研究推進社会連携機構への研究倫理に関する相談件数/研究倫理で研究科として判断に苦慮する案件数	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 学内の他研究科博士課程の学生と同等の研究環境の整備を実現する。
☆ その他	本課程学生の研究用スペースは非常に貧弱である。2009年度にも博士課程用学生の研究用スペースの確保を大学当局に求めてきたが実現されていない。学生の研究支援については、研究報告を行う場合の学会へ旅費補助、コピー費援助、研究科発行紀要への投稿権付与、購入図書選定にあたっての希望聴取、アンケート調査などへの支援などを行ってきた。

《評価指標データ》

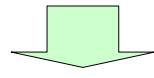
- 専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】
- 専任の研究旅費【大学基礎データ】
- 学内共同研究費【大学基礎データ】
- 教員研究費内訳【大学基礎データ】
- 科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】
- 学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】
- 外部資金等導入状況【基本的な指標データ】
- 教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】
- 学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】
- 留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	上記の本課程独自の研究支援はささやかながらも学生には歓迎されている。
	その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

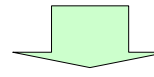
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	学生への研究支援についてはできるものからさらに拡充をはかっていく。研究倫理のコンプライアンスについては現状ではとくに問題はないが、将来にむけて定期的に検討する必要がある。
	その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	学生用研究スペースの改善。研究用の個人スペースがない。とくに梅田キャンパスでの研究環境改善。
	その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	本研究科だけでは対応は難しい。
	その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○教育研究等環境の整備に対する取組みが進められています。施設整備は大学全体にとって大きな課題ですが、学生用研究スペースの改善が図られることが期待されます。

【学内委員】

○学生用研究スペースの改善はむろんのこと、今後とも必要とされる学生支援について積極的に取り組んでいくことが望まれます。
○教育研究等環境が整えられることが望まれますが、どの程度貧弱であるのか示していただければ状況がよく分かると思います。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

○小項目9.0.4&9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 学生用研究スペースの確保が当面の大きな課題であると認識している。ほとんどが社会人学生であることから西宮だけでなく梅田での手当てが望ましく、平日昼間の空き等への対応に苦慮している。より良い研究環境の確保とスペースの有効利用の両立を目指し積極的に取り組む。